

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同

地球環境変化の人的側面（HD）分科会（第24期・第3回）及び KLaSiCa 小委員会（第24期・第1回）合同会合 議事要旨

1. 日時：平成 30 年 7 月 18 日（水）10:00~12:30
2. 会場：日本学術会議 6-C（1）会議室
3. 出席者： 氷見山幸夫（委員長）、春山成子、岡本耕平、櫻井武司、篠田雅人、中村桂子、山形与志樹、山田高敬、吉田謙太郎、阿部健一、亀山康子（以上分科会委員）、内海成治（小委員会委員）
（欠席：石川義孝、近藤昭彦、城山英明、山口しのぶ（以上分科会委員）、阿部治、桃木至朗、上田信行、高野孝子、中野民夫、渡辺政隆（以上小委員会委員））
4. 配布資料
 - ・シンポジウム案
 - ・HD 分科会 委員名簿
 - ・HD 分科会 KLaSiCa 小委員会 委員名簿
 - ・第 24 期・第 2 回 HD 分科会議事要旨
 - ・KLaSiCa 台北シンポジウム案内

5. 議事

- （1）KLaSiCa（Knowledge, Learning and Societal Change）小委員会役員の選出（小委員会委員のみによる）

KLaSiCa 小委員会世話人の阿部委員により同小委員会の成立が確認され、小委員会委員の互選で同委員が委員長に選出された。また委員長より副委員長として内海委員および櫻井委員、幹事として岡本委員が指名され、いずれも了承された。

- （2）分科会議事要旨の確認方法

議事要旨の扱いについては、できるかぎり早く確定してウェブ上で公開するという学術会議の方針を踏まえて、①担当幹事は議事要旨案をできるかぎり早く作成し、議長による確認の後すべての委員に送り、②当該会議出席者は1週間以内に修正意見もしくは確認済の回答を担当幹事に送り、③それを受けて担当幹事は意見を集約し、議事要旨案を修正した上で議長の確認をとり、それを再度委員全員に送り、④出席者は修正意見があれば1週間以内に担当幹事に送り、⑤それを踏まえて担当幹事は議事要旨案の最終版を作成して議長に送り、議長はそれを確認の上議事要旨として事務局に提出することとした。回答を求める際、メール件名に「要返信」と書くこととよいとのこと。

- （3）HD に関する国際的・国内的動向について

- ・ 7 月上旬にパリで開催された ISC（国際学術会議）に関して氷見山委員長から報告があり、Future Earth への言及がなかったのに対して SDGs については活発な議論があったことが話題となった。
- ・ 委員長から『学術の動向』4 月号に掲載された蟹江論文に Future Earth と SDGs の関係について言及があることが紹介されるとともに、前者については、研究者向で一般には分かりづらいなどの問題点があるとの指摘があった。FE はもっと、SDGs との関わりや、教育（とりわけ ESD）との関わりを重視すべきであることなどが確認された。
- ・ 岡本委員から、SDGs は目標であり、FE は、問題解決志向型、超学際的アプローチ、産学連携

といった研究の姿勢や意義を共有するものとして見るべきであり、それを発展させるためには産業への影響や、具体的な視点が必要となるとの意見があった。

- ・篠田委員から、災害問題への対応としてリスクマップを作成し、それを使って特定地域の防災を支援するなど、具体的な成果を出すことが重要であるとの意見があった。このテーマのシンポジウムが近日中に開催されるとのこと。
- ・山形委員から、KAN (Knowledge-Action Network) を 2、3 個選んで、順に進めていき、名古屋大学や地球研などが主導して、日本がそれを先取りすることも考える必要があるとの意見があった。
- ・地球科学系の発言力が強くなっている ISC や国際学術連合では、SDGs に本格的に取り組む姿勢やそれへの関心が高まっているとの情報が委員長から提供された。
- ・阿部委員から、SDGs が社会に定着するなかで、FE の役割が変化しているが、それは妥当なことではないかとの意見があった。

(4) 「人類世」シンポジウム（仮題）の開催について

- ・岡本委員から人新世の方が人類世よりも訳語として適切との指摘があり、修正することとした。
- ・阿部委員から、一人一人の行いの積み重ねが引き起こす環境変化を評価し、各人が自己の役割を自覚できるようなシンポジウムを開催したい、というシンポジウム開催の提案理由が説明された。
- ・春山委員から、シンポジウムの対象に関する質問があり、仮に高校生が対象なら、書き方や日程なども工夫する必要があるとの指摘があった。
- ・岡本委員から、教育現場では SDGs に対する意識が高まっている。主に文系で関心が高いとの感想が述べられ、その具体例として『現代思想』の「人新世」の特集号が紹介された。
- ・内海委員から、高校で行われているスーパーグローバルがと連携すべきだとの提案があった。
- ・氷見山委員長から、SDGs のロゴを入れた魅力的なポスターなどを作り、目一杯アピールし、12 月のどこかの週末に実施するのが良いのではないかと提案があった。
- ・岡本委員から人新世の議論には人間中心主義に対して批判的な哲学的な議論が多いとの感想、阿部委員からフランスの思想界で関心が高いが、難解な議論が多いとの感想が述べられた。
- ・氷見山委員長から、自然科学的な視点は不可欠であるとの指摘があった。加えて、ローカルなレベルの研究とグローバルなレベルの研究とをつなげるような相互啓発的な視点が重要であり、それを念頭にシンポジウムのスピーカーを考える必要があることが述べられた。
- ・阿部委員から、高校生対象ではなく、研究者対象に HD 分科会の存在をアピールする方がより重要なのではとの意見があった。
- ・議論の後、「地球システムと私たちの生活—人新世時代の想像力」という題にすることとした。
- ・氷見山委員長から、実践面が重要なので、良い実践例を語れる人が講師に必要との提案があった。
- ・シンポジウムは 12 月～1 月の週末開催を目指すこととした。場所は学術会議のほか東大の可能性も模索することとした。また来年 1 月学術会議で開催の場合は 8 月 22 日が提案書の提出期限なので、メールで提案書を詰めることとした。そして 1 週間以内を目処に、委員各自がシンポジウムで何を話せるのかを ML で流し、それを受けて阿部委員が取りまとめをすることとなった。

(5) 日本における KLaSiCa プログラムの推進について

- ・阿部 KLaSiCa 小委員会委員長から、今年福岡で開催される World Social Science Forum と台湾

で開催される KLaSiCa のシンポジウムが紹介された。国内でも日本環境教育学会などと連携しながら啓蒙活動を展開していく必要があること、また実践を基に生活をどのように変えるのかを学習することを目標に活動を展開することなどが説明された。

(6) その他

- ・次回の分科会を9月 5, 6, 7, 10, 11, 12, 13 日のいずれかで日程調整することとなった。